

あ ら ぐ さ

平和を願う熱い行動に参加

副学院長 三浦昭子

今年も8月6～9日に行なわれた広島
の原水爆禁止世界大会に1年生4人を代
表として送った。これは、毎年本校の学生
自治会の方針として位置付けられており
「看護師を目指す看護学生として平和は絶
対に守らなくてはならない環境である」と
して、全学年で取り組まれている。代表者
は、立候補制で決まると千羽鶴作りや、カ
ンパ活動が行なわれた。カンパは地域のこ
家庭にも参加者と職員とが、大会に参加す
る意義と抱負をお伝えしながらのお願いに
同い、沢山の賛同を戴いた。また、協賛す
る教職員手作りの「(憲法)9条カシ」
を会食しながらの学生全体集会も行った。

東日本大震災では放射性物質が外部に放
出されるという、日本の災害史上類を見な
い深刻な事態が起こった。福島原子力発電
所の事故から1年半を経てもなお、除染も
進まず、ふるさとを離れ暮らしている人々
が大勢おり、放射線被曝の恐ろしさは、現
実問題として横たわっ
ている。

67年前の広島・長崎
の原爆投下の問題だけ
でなく、現在のエネル
ギー問題を真剣に考え
る必要性も、私達一人
一人に教えてくれた大
会だったのではないか



と思う。参加した4人の感想からは、世界中から
集まった多数の平和を願う人たちと共有した、熱
い思いが伝わってくる。そして、「現実から目を逸
らさず、痛みを感じ、できることから行動してい
こう」という若者らしい感想
に、参加出来なかった学生や
教職員も励まされている。



原水爆禁止世界大会2013 in
広島に参加して 1年 長田梨佐

私は今まで戦争というものに目を逸らしていた。

広島は「原爆が投下された」ところ程度しか知識
が無かった。今回原水禁に参加し、命や平和につ
いて改めて考えさせられた。開会式ではキューバ
やマレーシア等21カ国と日本全国からの6800
名もの人々に圧倒された。世界の核兵器は7万発
から2万発へと減りつつあるとは言えその数の多
さに恐怖心を抱いた。開会式後の核兵器をなくす
青年交流集会では被爆者の方と河田氏の話が印象
的であった。「67年前の8月4日、明後日原爆が投
下されると貴方だけが知っていたとしたら貴方は
どうしますか」「67年経った今、広島の被爆した
方々に何ができますか」「無くなった方にも被爆者
がいます。貴方ならどうしますか」。この三つの質
問に言葉が出なかった。何かできるのかもしれな
いが、果たしてそれが正しいのかわからなかった。
二日目は袋町小学校平和資料館や旧日本銀行広島
支店、帝国銀行広島支店等の被爆遺跡を廻った。

原爆の恐ろしさが伝わってきた。本でしか見たこ
とがない原爆ドームが目の前に現れた時は、身震
いた。平和祈念資料館に残された多くの傷跡は
どれも当時の悲惨さがリアルに伝わり、平和につ
いて一層考えさせられた。被爆者の方の話には
目をつぶり当時の様子を想像した。それが自分だ
ったら・そう考えれば考ええる程、恐怖を感じた。
生き残ったことへの悔やみの言葉には切なさ共
に原子爆弾は人の命も気持ちも奪う恐ろしい凶器
だと思え、被爆者の心を感じることができた。三
日目の平和記念式典では、世界中から参加した大
勢の人達が平和を願う姿を見た。「平和とは何だろ
う」とあらためて思わずにはいられなかった。一
発の原子爆弾が広島町の町と多くの尊い命を奪った。
生き残った人々も苦しんでいる。当時の爪痕を見
るたびに鳥肌が立ち、涙が溢れてとても心が痛か
った。まだ沢山の方が行方
不明。「広島を歩く時は人の
骨の上を歩いていると思っ
て下さい」と言われ、更に
心が痛くなった。今を生き
る私達は当時の方々がどの
ように苦しんだのか考える
必要がある。戦争は嫌いだ
から聞きたくない、見たく
ないと思っていた。しかし
多くの尊い命が奪われた事
実から目を逸らしてはいけ
ないと強く感じた。



平和祈念公園にて：左より久根、藤江、長田、小野沢

戴帽式をひかえて

担任 中込英利香

入学して6ヶ月が過ぎました。この間に、球技大会や学院祭、キャンプ、2回のテスト、看護技術フェック、そして二回の実習と盛りだくさんの半年でした。

新しい仲間との交流の楽しさや、看護を学ぶ意味、人と関わる喜びと難しさ、実習を通じて感じる自分の力不足、など34期生は看護学生として様々な経験をしながら多くを学んでいます。入学した当初から、前向きに努力し、苦悩や葛藤を繰り返しながら大きく成長している事を実感し、担任として嬉しく思っています。

看護学生の過密なカリキュラムを進めて行く中では、ご家族の支えがあって学生生活があると思います。学業や実習に奮闘している学生一人一人に、ご家族の協力が様々な場面で感じられます。

34期生は今、戴帽式を控えて準備をしています。34期生らしい戴帽式となるよう、クラス全員で取り組んでいます。

戴帽式の取り組みやこれまでの経験を明日の力に変えて、大きく成長していく学生を、これからもご家族の方と共に応援していきたいと思っております。



戴帽式練習

大きな山場、後期の実習に向けて

副担任 梶原奈津子

7月は労働体験(成人看護学実習)に奮闘し、夏休み後は後期の臨地実習に向け、看護過程の演習や事前学習の取り組みと期末試験の学習が重なり、課題多い時期を乗り越えてきました。学校行事も中心的に担っています。いよいよ10月末〜2月までの4カ月の長期実習が開始されました。初めての長期実習に戸惑うこともあると思います。そして実習中は、緊張も強くなり、寝不足となりがちで、ご家族の皆様へ支えていただくことも多いかと思えます。ご支援をよろしく願っています。

これまでの実習を重ねてきた中で、学生はたくましく豊かに成長しています。成長していく学生の姿を見ると本当につれしく思います。この長期の実習を乗り越えていくためには、クラスのテーマでもある「仲間と助け合い・支え合い、仲間を大事にする」ことなしには乗り越えられません。是非ともこのテーマを忘れずに、この長期実習を乗り越えてきてください。その力が必ず3年次につながるものとなります。そして、一回り大きく成長した2年生に出会えることを楽しみにしています。応援しています。がんばれ！33期生！



校内実習(与薬)

ひとつの出会いを大切に 最後の集大成に突入

担任 成島美里

4月から、過密なカリキュラムの中で国家試験対策も同時に行われ、グループ学習を中心に全員合格に向けて取り組んでいます。夏休みも殆ど休みなく登校し、学習に励んだ結果、全国模試では良い結果をあげることが出来ました。しかし、その後は結果が伸び悩んだ学生もおり、まだまだ不安定な状況で努力が求められています。現在も、実習の合間を縫って、問題集に取り組み、実習と国家試験との両立に頑張っています。

実習では、精神・地域看護学実習を通して、地域で生活している対象者に出会い、患者の生活や人生により迫り対象理解を深めています。さらに、夏休み明け後の1年生とペアを組んだ成人看護学実習Ⅲでは、下級生に指導することで、自分が1年生に伝えたいことは「これだっ！」と、自己の看護観を深めることが出来ました。現在は、3年間の集大成とも言える、最後の長期実習に入っています。患者さんとゆっくりじっくり関われるのは、学生の特権です。患者さんのためにたくましく、考えて、患者さんと向き合ってください。看護は楽しいと思えるはずですよ。患者さんのことを真剣に語る眼差しに、3年生の確かな成長を感じています。患者さんと向き合っただけで揺らぐことも多いかもしれませんが、ひとつの出会いを大切に、頑張れっ！32期生！



在宅看護演習



キャンプ(保健体育演習) 1月丹波山



労働体験(成人看護学演習) 7月2年生



校内実習1年生



**社会福祉演習発表
3年生 7月**

**在宅看護演習
3年生 9月**

父母の会

- ～交流深めた2年、3年部会（7月27日）～学校から以下のお話がありました。
 家族のサポートの要点：規則正しい生活・学習時間確保・精神的支え・経済的援助
 学力向上の要点：通常試験で平均点以上目指す・臨地実習で実力伸ばす・学習習慣定着
 全体会・学年別部会・個別懇談と進み、御家族同士と先生方が学生さんの現状とサポートを話し合いました。
- ～2012年度第二回役員会（10月20日）～国家試験激励カレーを年明けに（3年生）
 - ・学校より各学年ごとに学生さんの現状と課題が話され意見交換しました。
 - ・事業計画に基づき学校への寄贈図書（30冊）を確認しました。
 - ・1年生の戴帽式にはナースウオッチを贈呈することとしました。
 - ・2年生には成人と実習激励の贈呈品を1月に贈ることとしました。
 - ・3年生の国家試験勉強を励ますために年明けにカレーを作ることにしました。
- ・学校より11月10日（土）の戴帽式（本学講堂）と12月18、19日の卒業研究発表会（新県立図書館）に大勢の御家族がきて頂きたいと案内がありました。

◇共立高看 教職員活動報告◇

7月6・7日	第38回 日本看護研究学会学術集会	成島・押領司
8月2・3日	第24回日本看護学校協議会学会	河西・丸山
8月4・5日	第22回日本看護学教育会学	中込・細田・押領司
8月11-12日	第24回（社）日本看護学校協議会学会	中込・押領司
8月24日	授業研究公開授業	全教員
8月27日	山梨民医連実習指導者研修会	全教員・実習指導担当者
9月30日～	第11回全日本民医連看護・介護活動研究交流集会	成島・細田・押領司
10月4・5日	第45回 日本看護学会学術集会（母性看護）	河野・押領司

予定

10/1～12/14	3年生実習：精神Ⅱ・地域Ⅱ・老年Ⅱ・成人Ⅲ
10/29～12/14	2年生実習：成人Ⅰ、Ⅱ、小児Ⅱ、母性Ⅱ実習()
11/10	戴帽式(1年生)
12/1	前期一般入試出願開始
12/1、1	卒業研究発表会(3年生)
12/18～	冬季休暇
12/25～12/27	スキー（保健体育）
1/8	前期一般入学試験
2/7	後期一般入学試験
2月中旬より	期末試験
2/17	看護師国家試験
3/8	32期生卒業式

〔1年生戴帽式の御案内〕

入学後の半年を振り返り、看護師を目指す決意を新たにする場です。実行委員中心にクラス皆で作りに上げる感動の式に御家族、講師の皆様、実習場の皆様是非御出で下さい。
 11月10日（土）
 午前10時 本学講堂



〔3年生卒業研究発表会の御案内〕

事例のまとめをつうじて3年間の学びを看護観にまとめ上げて発表します。成長を深く実感できる場です。御家族はもちろんどなたでも参加できます。
 12月18、19日（火、水）
 新県立図書館（甲府駅北口）
 川嶋みどり氏記念講演
 19日（水）午後



近隣の皆様、原水爆禁止世界大会参加のカンパ有り難うございました。老年看護学では市内の老人クラブの皆様とゲートボールや昔の遊びを経験しました。1年生の校内実習では地域の健康友の会の方々に模擬患者さんとして御協力頂きました。病院等の実習で受け持たせて頂く患者さんも殆どが地域にお住まいの方々です。六切子供クラブ縁日広場に学生と教員が参加させて頂きました。皆様に育てて頂いていると実感します。（学院長）

編集後記：今号は原水爆禁止世界大会報告をメインにしました。載せ切れないことが沢山あります。ホームページも見て下さい。12月から育児休業を終えて編集担当藤本教員が復帰します。編集担当：三浦、中込、藤本、水上